

Live イベント

司書が語る！ Live イベント

「司書が語る！ Live イベント」は、「スタッフと参加者の皆様が双方向で交流できる」「司書・図書館を身近に感じられる」ということをコンセプトに企画されました。令和 3 年度から始まり、今年で 2 回目になります。

担当の司書が、番組ごとに設定したテーマにそって Zoom を使用し Live でお話しし、参加者の皆様からの質問をチャットで受け付けました。遠方の方も、Live で司書の話が聞けて質問できるという、オンライン開催の利点を活かしたイベントです。

12 月 11 日（日）に計 3 番組を配信しました。アンケートでも、「バリアフリー資料の実演を見て、利用のイメージをつかむことができた」「多くの高校の展示や取り組み、工夫、各校の特色を見ることができて勉強になった」など好評でした。以下では、公共図書館部会と高校図書館部会それぞれの番組について紹介します。

公共図書館部会による Live イベント

県立久喜図書館では、活字を読むことに障害のある方向けに、さまざまな障害者サービス用（バリアフリー）資料を所蔵しています。活字を読むことに困難を抱える人たちがどのように読書を楽しんでいるのか知っていただくために、この Live イベント企画しました。

読めない人の読書事情

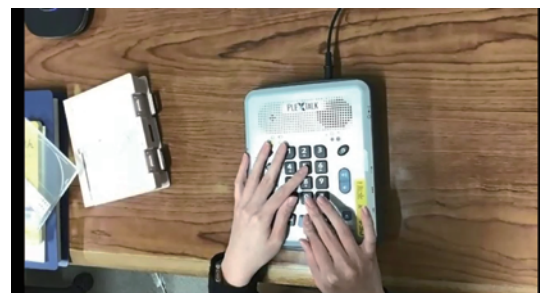
～バリアフリー資料の今とこれから～

配信時間：12 月 11 日（日）12:20 ～ 13:20



はじめに、どのような人が読書に困難を抱えているのか考えていきました。例えば、視覚障害があり活字を見ることができない人がいます。発達障害のために、目は見えていても活字を読むことが困難な人もいます。また、知的障害のために、文字ばかりだと本の内容が理解できない人もいます。身体が不自由で本を持てなかったり、ページがめくれなかったりと、本を読むことが難しい人もいます。読書に困難を抱える人と聞くと視覚障害者を思い浮かべる人が多いですが、その事情は様々です。

続いて、スライドを使い、県立図書館で所蔵しているバリアフリー資料を紹介しました。まずは点字資料です。点字資料は、視覚障害者の方向けに活字の本を点訳（活字を点字化）したものです。活字の上に点字や絵が浮き出るように印刷されたユニバーサル絵本は、視覚障害の有無にかかわらず楽しめます。次に、デイジー図書を紹介しました。デイジー（DAISY）とは Digital Accessible Information System の略で、日本語ではアクセシブルな情報システムと訳されるデジタル録音図書の国際標準規格です。専用の再生機のほか、タブレットやパソコン、スマートフォンで再生できます。見出しやページ単位での移動ができ、再生スピードも変更できます。音声のみが再生される音声デイジーのほか、音声と文字と画像が同期して一緒に再生されるマルチメディアデイジーもあります。デイジーは視覚障害のある方だけでなく、ディスレクシア（読み書き障害）等の発達障害の方、肢体不自由の方に利用されています。



※音声デイジー実演

マルチメディアデージーに関連して、アクセシブルな電子書籍（EPUB）も紹介しました。マルチメディアデージーと同様、音声と文字と画像が同期して一緒に再生されます。デージー再生機のほか、タブレットやパソコン、スマートフォンで再生可能です。続いて、布の絵本を紹介しました。布の絵本は文字通り、布でできた絵本です。マジックテープやボタンが付いていて、パーツを動かしながら楽しむことができます。特別支援学校や特別支援学級等の団体に貸出を行っています。最後に LL ブックを紹介しました。LL ブックは、知的障害や発達障害の方向けにやさしい文章で分かりやすく書かれた本です。絵や写真、ピクトグラムが多く使われるといった工夫がされています。

続いての実演タイムでは、布の絵本『いないいないばあ』、点字図書『健康・医療情報リサーチガイド @ 埼玉』、音声デージー『源氏絵の系譜』、マルチメディアデージー『サンドイッチつくろう』などを紹介しました。実演を見ていただくことで、各資料の特徴を理解していただけたと思います。

さらに、視覚障害者の最新の読書事情として、Kindle を紹介しました。Kindle は、iPhone に標準搭載されている画面読み上げ機能 VoiceOver で読むことができます。点字図書やデージー図書の製作には時間がかかるため、視覚障害者の中には Kindle 版を購入して読書を楽しんでいる方もいます。中には音声読み上げができないものもありますが、スマートフォン普及で視覚障害者の読書事情は変化しています。

Live イベント終盤は、参加者から寄せられた質問に回答しました。音声デージーの再生スピードについてや、オーディオブックの利用についてなど、たくさんの質問をいただきました。Live イベントならではのアクシデントもありましたが、参加者の皆さんの御協力で充実した時間となりました。

（記録：埼玉県立久喜図書館 尾崎 栞）

高校図書館部会によるLiveイベント

■準備

高校図書館部会の Live イベントは、昨年に引き続き、高校図書館の紹介になりました。普段はあまり見られることがないので、工夫を凝らした展示やいろいろなコーナーがあるのを紹介したいと考えました。

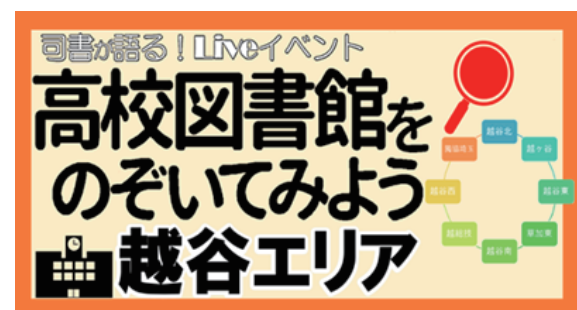
昨年度の PowerPoint がとてもよくできていたので、製作者の許可を得て、写真を入れ替えて使わせてもらいました。写真は、今年の実行委員である越谷と川口のネットワーク所属校に、正門・入口・カウンターなどテーマを決めて提出してもらいました。

本番は生配信なので、11月1日（火）と30日（水）に、越谷と川口の合同リハーサルを行いました。本番と同じ Zoom を使って、越谷地区は一カ所に集まって、川口地区はそれぞれの勤務校から参加して、接続や写真の写り具合を確認しました。同時に事務局や実行委員同士の打ち合わせも行いました。

以下はそれぞれの担当者が書いた内容紹介です。

高校図書館をのぞいてみよう 越谷エリア

配信時間：12月11日（日）13：40～14：20



今回の Live イベントは昨年度同様 Zoom を用いて行われ、東部 A ネットワークに所属する9校（越ヶ谷高校、越谷東高校、越谷西高校、

越谷南高校、越谷北高校、越谷総合技術高校、草加東高校、獨協埼玉中学・高校)の図書館を紹介しました。

ただ今回は昨年度から少しだけやり方を変えて、事前に集めた各校の図書館入口、館内全体、カウンター、ここを見て欲しいポイント等の写真とコメントをスライドにまとめたものを、二人の司書が明るい口調で掛け合いをしながら紹介し、前半終了後と全校紹介終了後にチャットに上がった質問に回答するという形で進行しました。なお当日回答できなかった質問は、「図書館と県民のつどい埼玉」のウェブサイトの中のLiveイベントのページで回答しています。

始まるまでは、新型コロナの影響による役割変更等のアクシデントで、少々バタバタしましたが、本番ではうまく進行することができました。なお今回は最大視聴者数 86 名、合計視聴者数 99 名と多くの方々に視聴していただき、チャットや終了後のアンケート回答では、各校の図書館の様子がよくわかった、進行が良かった等、多くの好意的なご意見ご感想をいただきました。

高校図書館をのぞいてみよう 川口エリア

配信時間：12月11日(日) 14:40～15:20



南部Eネットワークに所属する 10 校(南稜、戸田翔陽、蕨、鳩ヶ谷、川口工業、川口北、川口東、川口青陵、県立川口、川口市立)の図書館を紹介するライブイベントです。

事前に各校から集めた写真(正門、図書館入口、図書館内、カウンター、イチオシのコーナー

など)とコメントをスライドにまとめ、Zoomで紹介しました。昨年度に倣い、アピールポイントや他校への質問も司書から募り、充実した内容になりました。

前半後半2回に分けて視聴者からの質問時間を設け、その場でチャットに送られた質問に答えるなど、限られた時間の中で双方向のイベントになるよう工夫しました。最大視聴者数は 86 名と活気のあるものになり、中には県外から参加して下さった方もいたようです。

■まとめ

本番が終わった後、チャットの質問への回答のウェブサイトへの掲載、紹介された写真のウェブサイトへの掲載、などを行いました。

Live イベントは、準備と当日出演と負担が大きく、当日急に出演できなくなった人もいて、事前に撮影した録画を流した方がいいという意見も出ました。チャットを使っただけの質問もライブ感がありますが、回答に正確さは欠けます。

「図書館と県民のつどい 2022」全体のLive配信視聴者は昨年度の 726 人から 401 人と半減、うちLiveイベントも視聴者は 99 人と 86 人で昨年度より減少したと聞きました。

最終的な目的は、県内の各種の図書館が協力して、埼玉県民の図書館への理解を深めてもらうことです。来年度は対面できるとよいと思っています。

(記録：埼玉県立越ヶ谷高校図書館 石黒 順子)